



TITLE:

經濟學會

AUTHOR(S):

CITATION:

經濟學會. 經濟論叢 1943, 57(1): 94-100

ISSUE DATE:

1943-07

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/132015>

RIGHT:

會學濟經學大國帝都京

經濟論叢

號一第卷七十五第

貨幣よりの干渉

高田保馬

戦力増強の理論

柴田敬

大東亞戦争と日本女性の復興

中川與之助

ペツテイの經濟理論

白杉庄一郎

グスタフ・
ルーランドの農業經濟理論

山岡亮一

支那私幣考補正

穂積文雄

南方關係文獻展觀目錄

彙報

行發月七年八十和昭

經濟學會

○經濟學會大會

本年度經濟學會大會(第二十五回)は、前號本誌所載の豫告の如く、五月二十九日(土)午後一時より法經第四教室に於て公開講演會を開催、盛會裡に午後五時閉會した。なほ會員一同晚餐を共にした後、六時半より樂友會館に於て、講師を囲んでの座

談會を開催、特に田中局長を中心に熱心な質疑應答が行はれた。講演會の次第及び講演要旨は次の如くである。

挨拶 本學經濟學部長 谷口吉彦氏

中小工業の過去現在未來

關西大學教授 磯部喜一氏

戰時食糧政策の諸問題

農林省食品局長 田中啓一氏

財政と財界 本學教授 沙見三郎氏

附會の辭 本學教授 柴田敬氏

○ 中小工業の過去現在未來

磯部喜一氏

我國の中小工業問題は、第一次大戰後とくに關東大震災後において發生したものであるが、それ以前においては明治維新以後の外來工業の發展に對する我國固有工業の問題が、大工業に對する小工業の問題として存在した。この小工業問題は世界大戰によつて解決せられ一應消滅したが、その後水力發電の發達とともに簡單な作業機を從來の固有工業に利用して、これを工場制工業たらしめ得ることとなり、恰かも大震災の回復策としての輸出振興が問題となるに及んで、大工業に對する中小工業の問題が發生した。

支那事變の勃發とともに最初は外貨獲得のための輸出振興が圖られ、中小工業の重要性は加はつたが、他面に國內民需用の中小工業は抑制せられ、他方また中小機械工業の擴充が考へら

れるに至つた。然し資材の逼迫とともに次第に中小機械工業の整理統合が行はれ、織物關係また統合され、遂に全面的な統合が昨年度において一應完了することゝなつた。

然しながら機械工業においては、部分品生産の上において中小規模の工場に適した部分品が存在するから、かゝる性質の中小工業は殘存することが考へられるし、又一般に勞力の有效な利用の上から見ても中小工業が行つてきた剩餘的な家族勞働利用の方法を生かす途が今後において考へられ得ると思はれる。

戰時食糧政策の諸問題

田中啓一氏

政府の現下に於ける施策の目標が、戦力の増強と國民生活の確保にあることは、政府の屢々表明せる所で、茲に改めて縷説するまでもなからう。而してこれに對する農村の寄與は、食糧の増産と鐵工業部面への勞働力の供出にあると考へられる。しかし今日の事情から見ると、勞働力の供出は、滿洲開拓民送山の必要等により、今後は餘り期待され得ざる事情にあり、専ら食糧の増産の中に農村は益々大なる寄與をなすべきを期待されてゐる。

我が國の食糧需給は、種々なる問題があるとは云へ、いづれも解決不可能なる問題に非ず、政府當局は、國民と共に、確固たる自信を以て政策の遂行に處しつゝある状態である。今日までの政府のとり來つた統制諸施策を通覽するに、支那事變勃發後最初は輸出入部面より生ずる必要に基く國內經濟調整策として諸般の政策が實施されたが、其の後急速に國內經濟そのもの

の必要に基くものに轉化するに至つた。食糧政策もまた之が線に沿つて運用され來つたことは云ふまでもないが、内容的に見れば、個人又は世帯の實績購入から定量割當に轉化しつゝあると云ふべく、今日では、主要食糧特に米穀は既に後者への轉換を完了してゐると云ふことが出来る。かゝる場合、先づ問題になるのは、國民保健の觀點からする適正營養量確保如何の問題で、これが解決のために今後の食糧問題は榮養問題と云ひ得るであらう。尤も從來これが等閑に附されてゐた譯ではなく、只經濟問題としての食糧問題の背後にかくれてゐただけである。が、今後は、これが前項に出て、經濟問題を裏づけ、その解決に方向を附與するやうになると思はれる。

財政と財界

沙見三郎氏

輸出入品等に關する臨時措置法と國家總動員法によれば殆どなし得ざる統制なきが如くに見えるけれども、財政の問題だけは除外され、依然として議會の協賛を必要とする。財政が如何に經濟界及び國民生活に重大なる意義をもつかはこゝにも窺はれる。

軍事費が豫算總額に止める割合は交戦各國とも高いが、大東亞戰以來の我が歳計の膨脹は殊に顯著であり、その主因は云ふ迄もなく臨時軍事費特別會計にある。この會計は會計年度において特色をもち、又内容の細目が示されず、前金拂、概算拂の特例が行はれる點でも注意を要する。

この莫大な軍事費のため今日の經濟界は軍需を中心として動

くが、生産が永く生産費を割つて繼續され得ないとすれば、一方に低物價政策を堅持する限り、他方に何等かの工夫がなければならぬ。財政は今日またこの點で重大な意義をもつてゐる。

例へば軍事費の前金拂、概算拂により資金の供給を豊富にするほか、米石炭銑鐵等において二重價格制をとり、これらのための補助金に約十億圓(昭和十八年度)を支出してゐる。また租税は愈々高率になりゆく間に於て、時局産業については固定資産償却年限の短縮を行ひ、研究設備に投じたる資金を損金に計算し、更に法人留保所得を生産力擴充に用ひたる場合減免税を行ふなど、時局産業に擴張を容易ならしめまたは戦後に備へしめる。戦時中増税の反面に、臨時租税措置法等によりこれらの減免税を行ふのは財政の著しい進歩である。

權力の實行にも限界があるならば、そのなし得ざるところに財政が働いて、最も必要とされる戦力増強に努め、豫算の數字が單なる畫ける餅にならざるため各種の用意がなされてゐるのである。こゝに財政と經濟界との顯著な相關關係が見られる。

○特別例會

經濟學會第一回特別例會は五月三十日(日)午前九時より、榮友會館に於て開催、左の如き報告が行はれた。

午前の部

本邦六大都市人口増加の分析 青盛和雄氏
獨逸農業經濟學の發展と浪漫主義 山岡亮一氏
勞務管理の對象と課題 大塚一朗氏

午後 の 部

支那農村工業の類型——農業と工業との結合關係—— 堀 江 英 一 氏

私 鈔 考 穂 積 文 雄 氏

ヒックスの利子論について 高 田 保 馬 氏

當日の出席者、高田、汐見、谷口、八木、柴田、大塚、堀江（保）、中谷、佐波、穂積、徳永、靜田、白杉、山岡、田杉、出口、堀江（英）の諸先生。青盛、有田、一谷、井上（次）、奥村、金森、河野、菊地、祭原、島津、杉原、中西、前田、松枝、三谷の諸氏。

○

本邦六大都市人口増加の分析 青 盛 和 雄 氏

先づ人口増加の事實を検討し、之を出生死亡の自然的關係と移住來住の社會的關係とに分析し、夫々の都市別に又男女の別にも分つて其の増減を吟味し、次いで斯る推移の原因事情と考へられる各都市人口の職業構成の變化を論究す。結論的に國內に於ける産業編成の戰時經濟體制への切替に伴ひ、工業化或は都市化の趨勢は顯著にして停止し難く、従つて一國全體の人口増加の中で都市人口に於ける自然増加部分に負ふ割合は増加すべく、來住超過又は都市人口集中の影響は當然に農業人口の比較的なる減少を來すとし、昭和十六年初の人口政策確立要項に所謂將來人口一億に於ける農業人口四割確保は困難であり、其を維持する必要は一旦に農業生産の維持にかゝつて居るし、況し

てや刻下の急務は重工業生産に、惹ひては戰爭の勝敗にも認められる限りに於て、民族の自然的なる繁殖力の如きは當面の問題にあらずと主張す。

獨逸農業經濟學の發展と浪漫主義 山 岡 亮 一 氏

獨逸農業經濟學の學としての發展はデューヤに始まる。この發展を收益理論上より見れば誠に順調なる成長の過程を辿つたものと云へる。併しながらこの學の誕生に際し擔はされた唯理主義思想は獨逸に於て前後二回にわたり大なる反抗に遭遇した。その第一は成立期に當つてのシュヴェルツによる反抗であつて、農業目的に關する見解はデューヤと全く一致するが、この目的達成の手段については相對立するといふ意味で、いはば半ば浪漫主義的反抗であつた。第二は歐洲大陸に大農業恐慌の勃發せる十九世紀後半のグスタフ・ルーラントによる反抗で、農業目的についても完全に相對立する見解をとる意味に於ていはば純粹浪漫主義的反抗といへる。彼より導き出される農業の經營目標は國民の榮養及び原料供給といふ領域内で個々の農場にあつたへられた任務を最高可能の程度に實現するためあらゆる生産諸力をあげての完全なる展開による最高且永續的な能力發揮と國民經濟の財循環への能ふかぎりの参加であり、要は共同利益の促進にある。彼にあつては農業は一の營業と見られてはならず、努めて私經濟的並に國民經濟的な二面的究明方法を採るのである。かゝる農業觀は後にナチス農業大臣ダレにより採り上げられ、現にその農業政策に對する指導的役割をはた

しつゝある。

支那農村工業の類型

堀江英一氏

— 農業と工業との結合關係 —

産業革命以前の工業生産形態について從來三つの立場、すなはち〔1〕マニユファクチュアの支配的存在、〔2〕問屋制工業の支配的存在、〔3〕マニユファクチュアと問屋制工業との同時的存在なる立場が存在したが、最近に至り〔1〕イギリスにおけるマニユファクチュアの支配的存在、〔2〕日本や支那部分的には歐洲大陸諸國における問屋制工業と云ふ二つの對蹠性が確認されるに至つた。工業生産形態のこの對蹠性を農業における階級分化の對蹠性との關聯において解決することが、報告者の問題であつた。

河北省高陽の織布業においては、農業經營面積が小なれば織布の經營規模および織布利益の農家全收益にしめる割合は少くなり又賃機が多いが、農業經營面積が大なるに従つて、織布の經營規模および織布の利益割合は増大し又獨立經營者が多くなる。高陽について云へば、貧農の賃機と富農のマニユファクチュアなる傾向がうかゞはれる。かゝる傾向を一般化できるとすれば、次のことが云へるであらう。

イギリスでは農業生産力の發達を利用できる規模をもつ富農または中農〔ヨーマン〕が多いに反し、これを利用できない貧農は農業から追放され少くなる。日本や支那に於ける農村階級分

化はこれと異り地主と小作人との分化の方向を辿り、従つて貧農層を農業から追放するどころか寧ろ貧農層を小作人として農村に定着せしめた。かゝる農村における階級分化の對蹠性はイギリスにおけるマニユファクチュアの支配的存在と日本や支那における問屋制工業の支配的存在との對蹠性とまさしく相對應するものである。これが報告者の暫定的な結論であつた。

私鈔考

穂積文雄氏

報告内容は「支那私幣考」(本誌五月號所載)及び「支那私幣考補正」(本誌本號所載)參照。

○會員動靜

桑

帯

第五十七卷

ナナ

第一巻

ナナ